



## 防災リテラシー

部長代理 勝木 茂

今年の9月上旬は、近畿地方を中心に台風21号による強風や大雨、高潮による大きな被害が、また同じ週に北海道において最大震度7の大きな地震（胆振東部地震）による大きな被害がありました。

このたびの災害においては、今なお厳しい状況が続いております。犠牲となられた方々には、心よりお悔やみ申し上げると共に、今なお避難所等での生活を余儀なくされている方々には、心よりお見舞い申し上げます。

わたしたち人間は、まさに自然の大いなる力を実感し、自然と共に生きていかなければならないことを、あらためて確認させられました。

さて、9月6日（木）に定例の「岩瀬キャンパス防災訓練」を実施いたしました。防災訓練は、子どもたちが地震や火災などの災害発生時に、安全に避難することができる態度や能力を育成することをねらいとし、体験を通して実践的に理解を深めるために実施するものです。また、初等部においては、日頃より朝礼等においても、災害時において、その場の状況に応じた的確な危機回避の行動がとれるよう繰り返し子どもたちに指導しているところです。

わたしは、これらの中においても災害時における自助力の育成が重要だと考えています。自助力とは、簡単に言えば、「自分の身を自分で守る力（行動力）」です。危機に直面したときに子どもたちが自ら状況を判断し、自分の生命を守るために行動できる力です。

ご存じの方も多いかと思いますが、東日本大震災時、釜石市内では、約3000人の小中学生のほとんどが、巨大津波から逃れて無事でした。いわゆる「釜石の奇跡」です。釜石市内の中学校では、校内放送が使えず、教師の指示が伝わらないにもかかわらず、生徒たちは自らの判断で、避難場所に指定されていた高台に向かい走り出します。その中学生たちの姿を見て、隣接していた小学校の児童たちも校舎から出て、その後を追って互いに励ましながらか避難します。間もなく校舎は津

波の被害を受けますが、子どもたちは無事でした。

この行動ができた背景には、「想定を信じるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」という「避難の3原則」が日常より子どもたちに指導され続けられたということがあったとのことです。「釜石の奇跡」からは、日常より自助力を育成していくことがいかに重要で



あるかを改めて考えさせられます。

現在、「災害発生時に、自分で考え、正しい判断・行動ができる自助力」「災害を乗り越えるため、他者と助け合い困難に立ち向かう共助力」などの防災リテラシー（※防災リテラシー＝災害にあったときに、どのように行動すればよいかあらかじめ対策しておくこと）を身に付ける防災教育を充実させていくことはますます重要になってきています。

特に、小学校段階においては、日頃よりお子様の発達等の状況に合わせて、繰り返し家族で話し合い確認するなど防災リテラシーを高めておくことが大切だと考えます。

例えば、「家族と離れている時に地震があったらどうしたらよいのか」「一人にいる時に停電になったらどうするのか」「電話が使えず連絡できない時にはどうしたらよいのか」「交通機関がストップしているときにはどうしたらよいのか」「いざという時にどこに避難したらよいのか」「避難所まで行く道順はどうするのか」などについて具体的に繰り返し話し合っておくことが必要になるのだと思います。